

競争って必要ですか？

競争社会に住んでいる私たちは「競争は進歩のために必要」と思っているかもしれませんが、果たしてそれは本当でしょうか。

以前、社内で複数チームに同じ開発競争をさせていましたがやめました。投資を2倍にしても開発は2倍になりません。エネルギーを2倍にしてもスピードは2倍になりません。人件費や研究費が高くなると、重複によるムダが経営を圧迫したからです。日本全体、世界全体で一体どれほどのムダがあるでしょう。

すでに経営の圧迫は資源の枯渇、環境破壊、環境汚染として現れています。

まともな経営者がいれば、決してこのような馬鹿なことはしないでしょう。

●社会主義国の環境破壊

ロシア、東欧、中国の公害は悲惨です。しかし「社会主義は競争がないから進歩が遅く公害が激しい」という説明はほんとでしょうか。資本主義の方が競争の激しい分だけ進歩(?)が速く公害が早く対策も早かったのです。ロンドンのスモッグ、ライン河の汚染、アメリカとカナダの煙害訴訟、日本のミナマタ、尼崎、四日市、川崎は凄まじいものでした。悲惨な犠牲の結果、国や企業が動き出したのです。しかし本質的には問題は解決していません。例えば採算の合わない対策は実施せずに途上国に移転しているのです。

●自然界はどうか

「自然界は激しい競争」と言われますが果たして本当でしょうか。

飢えたライオンはカモシカを食べます。食べ残しは他の動物が食べます。

しかし、他のライオンよりたくさん食べようとするライオンがいるのでしょうか。

より一度に2頭のカモシカを食べようとするライオンがいるのでしょうか。

食べすぎてジョギングしているライオンを見たことがあるのでしょうか。

貯金をして左ウチワのライオンがいるのでしょうか。

自然界にそんな愚かな生き物はいません。

もし、そんなライオンがいたとしたらカモシカがいなくなり、ライオンだけでなくハイエナもハゲタカも絶滅していたことでしょう。

●自然のルール

自然界に許されるのは最小限の消費です。これが生存の掟です。

生存の掟を守らないならば、たとえ人間でも生存できません。

自然か不自然か、これが生存か絶滅かの別れ目です。自然はシンプルです。